

ゆずりは通信

(H29 年 12 月)



●定例教育委員会での主な審議事項等 (11 月)

★第 14 回 (H29. 11. 2)

- ・丹波地区の教育の概要について
- ・平成 30 年度「指導の重点」編集方針について
- ・平成 28 年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について

★第 15 回 (H29. 11. 16)

- ・平成 29 年度兵庫県教育功労者表彰の受賞者決定の件
- ・知事の権限に属する事務に係る事務処理の特例に関する条例等の一部を改正する条例制定に係る意見申出の件
- ・博物館法第 10 条の規定による博物館の登録について

※会議録及び会議資料は、教育委員会ホームページの[教育委員会会議](#)でご覧いただけます。

県教委 TOPICS

●平成 29 年度第 4 回目の移動教育委員会を開催しました (H29. 11. 2)



第 14 回定例教育委員会を兵庫県篠山庁舎大会議室において開催し、丹波地区の教育の概要説明や審議が行われました。

午前中には、「反転授業」を通した予習の習慣化に取り組む篠山市立丹南中学校を訪問しました。同校では「教えてもらう学びから、自ら求め探っていく学びへの転換」をテーマに、教員自作の「予習動画」を活用し、生徒たちが予習で得た知識を応用して問題を解いたり議論を行う授業が展開されています。当日は学校長による概要説明の後、第 1 学年の数学「反比例の式」と第 2 学年の英語「接続詞 that の用法」の授業を見学しました。

このほか、古絵図や発掘調査等の総合的な学術調査の成果に基づいて平成 12 年 3 月に復元された篠山城大書院や、兵庫県指定文化財の「古丹波コレクション」をはじめ丹波焼の代表的な作品を展示する丹波古陶館を視察しました。



移動教育委員会の様子＝兵庫県篠山庁舎

●**県立歴史博物館 「館長鼎談『豊臣秀吉を語る』」が開催されました (H29. 11. 12)**

特別展「ひょうごと秀吉ー近年の新紹介資料を交えてー」に関連した「県立美術館・博物館の魅力発見事業」として、あいめっせホール（姫路市本町イーグレひめじ内）で館長鼎談が開催されました。

前半は、講談師の旭堂南海氏が、豊臣家と姫路にゆかりのある上方講談『難波戦記』より「片桐且元と方広寺梵鐘」を披露。大坂の陣開戦へとつながる方広寺梵鐘の銘にまつわる話を、同特別展で展示中の秀吉や鋳物師芥田家などの古文書と関連付けて語られました。

後半は、秀吉研究の第一人者である大阪大学名誉教授・大阪歴史博物館前館長の脇田 修氏と大阪城天守閣館長の北川 央氏、そして県立歴史博物館館長の藪田 貫氏による鼎談が行われました。史料調査等にまつわるエピソードや秀吉の人物像など、秀吉の魅力に迫る話が数多く紹介され、会場に詰めかけた約150名の観客を魅了しました。

新たに発見された直筆書状をはじめ、秀吉の足跡を示す資料等により、秀吉が県域の歴史に果たした役割を紹介した特別展「ひょうごと秀吉」は、11月26日(日)までの会期中に1万人を超える多数の来館者の皆様にお楽しみいただきました。



「館長鼎談『豊臣秀吉を語る』」=イーグレひめじ

●**第7回たんばっ子！学びフェスタを開催しました【丹波教育事務所】 (H29. 11. 23)**

丹波地域の子どもの学習意欲の向上と学ぶ楽しさを体験する「第7回たんばっ子！学びフェスタ」が、篠山市立四季の森生涯学習センター（篠山市網掛）で開催されました。

当日は天候にも恵まれ、総勢500名を超える参加者により、丹波地域の「学校・家庭・地域」がひとつになった会場は大いに盛り上がりました。小学2年生から6年生の子どもたちと希望した保護者137人が、漢字と算数のクイズ・パズル形式の問題にチャレンジしたほか、地元の県立高校や地域団体の協力のもと、充実した各種ワークショップが開催されました。

運営は、地元高校生が中心となり、昼食時には各校ならではの創作ランチがふるまわれ、子どもたちは大喜びでした。午後には、今年度から初めての同フェスタのプログラムとして、小学生が日頃の「ふるさと学習」の成果を発表し、ふるさとへの愛着をより深くしました。

本フェスタを通じて、子どもたちが自ら学ぶ楽しさを実感し、ふるさとのよさを見つめ、世代を越えた交流を図る所期の目的を達成することができました。



おもしろワークショップ
「工作教室と働く車のぬりえ」
県立篠山産業高等学校



丹波地域まちの自慢発表
ふるさとに「にしきをかざる」
～地域とつながる 西紀小学校～

※当日の詳細は丹波教育事務所のホームページをご覧ください。

●平成 29 年度第 1 回ゆずりは賞表彰式 (H29. 12. 1)



高井教育長から代表者に表彰状を授与＝兵庫県公館

兵庫県公館において、平成 29 年度第 1 回「ゆずりは賞」表彰式が行われ、高井教育長から受賞者へ表彰状と記念品が贈呈されました。「ゆずりは賞」は県下の学校教育及び社会教育の分野で、多くの人の模範となるような立派な行為等をした個人や団体を教育長が表彰し、その功績を讃えるもので、今回は個人 56 名と 10 団体が受賞しました。

表彰式では、第 72 回国民体育大会において、陸上競技少年女子 A 3000 メートルで優勝した県立西脇工業高等学校 3 年の田中希実さんが受賞者を代表してあいさつ。



受賞者代表あいさつ

※受賞者一覧等は教育委員会ホームページでご覧いただけます。

●県立教育研修所で「ドローン研修」を実施しています

ドローンは空の産業革命といわれ、最近ではテレビ番組でもドローンによって撮影された映像を目にする機会が増えています。また、教育の分野でも、理科での地質や環境の調査、社会科での遺跡や地形の調査をはじめ、工業や農業の分野等でも今後さらなる活用が見込まれています。

そこで、県立教育研修所では学校や市町組合教育委員会が実施する研修・研究会等への講師派遣テーマとして「学校における無人航空機（ドローン）の活用」を今年度から実施しているほか、出前研修や当所で実施する一般研修講座の中でもドローンの活用について紹介しています。



県立教育研修所のドローン



ドローン研修の様子

講座では、実機を使ったドローン飛行演習及び撮影の方法、撮影した映像の活用等について協議を交えながらニーズに応じた内容で実践するとともに、ドローンを安全に飛行させるために国土交通省航空局の『無人航空機の安全な飛行のためのガイドライン』をもとにした安全対策や規則の習得、飛行許可が必要な場合の国土交通省への許可・承認申請の方法についても研修を行っています。

※お問い合わせは県立教育研修所 情報教育研修課まで

県立学校の取組報告

●県立農業高校は創立 120 周年を迎えました

本校は7学科を擁する全国有数の規模を誇る農業高校であり、「ゆたかな情操 たゆまぬ研鑽」の校訓のもと、動植物と触れ合いながら命の教育、未来を切り拓くための高度な実践教育を行っています。また、定時制課程においては、3修制を導入し地域に貢献する人材を育成しています。本年度は創立120年目を迎えた記念する年となりました。その記念式典について紹介します。



校内クリーン運動

創立120周年記念式典に向けて10月17日(火)に、運動部や生徒会を中心とした生徒有志による校内クリーン運動を実施しました。また翌18日(水)には、園芸科は校内にあるプランターの植え替え作業、造園科は前庭の芝刈りや樹木の剪定を行いました。各科の専門性を活かした取組を行い、式典



創立120周年記念式典の様子＝同校体育館

に参加する皆様へのおもてなしの心を表しました。

記念式典は10月28日(土)、本校体育館にて挙行了しました。あいにくの空模様にもかかわらず、来賓、同窓生、PTAや地域の方々のご臨席を賜り、厳粛に執り行われました。式典には全日制及び定時制の在校生をはじめ約1200人が出席し、記念式典・記念講演・生徒発表を実施しました。記念講演では、「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚講座」と題して東京海洋大学客員准教授で、テレビなどでご活躍のさかなクンの講演を聞きました。さかなクンは、絵を描きながらクイズ形式で魚について質問をし、多くの生徒が活発に答えて、会場は大いに盛り上がりました。



生活体験発表 坂口 裕太君



農業クラブ意見発表 梶田 慎之佑 君

また、生徒発表では定時制生活体験発表(9月)に出場した3年坂口 裕太 君や、第68回日本学校農業クラブ全国大会(10月)に出場した3年 梶田 慎之佑 君が意見発表を行いました。2人共、自分の将来の夢を語り、会場からは大きな拍手が送られました。

※県立農業高校のホームページは[こちら](#)からご覧いただけます。

●県立学校が県庁の緑化に取り組んでいます



12月は、県立篠山東雲高等学校地域農業科の生徒による作品です。タイトルは「BAMBOO Garden」。同校では、放置竹林の有効利用や農業への活用について研究を行っており、今回の作品も300個以上の竹筒が素材として利用されています。シクラメンやポインセチア等が彩りを添えており、和と洋が見事に調和した作品に仕上がっています。



県立篠山東雲高校の作品＝兵庫県庁

県庁にお越しの際は、是非お立ち寄りいただき、「庭」の散策をお楽しみください。 ※学校PR等は[ワンショットニュース](#)で発信しています。

教育委員からのメッセージ

村田 泰子 教育委員



教育委員になって1年が経ちました。まだまだわからないことも多く、試行錯誤する毎日です。

そんな折、文部科学省で委員研修があり、出席してきました。全国のベテラン委員の方々から委員としての心構え等について教わりました。

まずは教育委員の責務について、教育委員会は「レイマン・コントロール」(しろうと管理)が基本であり、「専門でないから」と発言を控えるのではなく、意思決定に一票を持つ者として、みずからの経験や学識をもとに責任をもって発言すべきと話されました。

ただまた、委員の多くは教育の専門家ではなく、また委員の仕事は非常勤ですから、どうしても知識の量は限られます。それを補うための具体的方法として、事務局のかたに質問する、資料をもらう、現場に足を運ぶなどの方法が示されました。

最後に、ある委員のかたが、「自分も新任のころには唐突な発言をしては、場を凍り付かせた」とおっしゃっていて面白かったです。今回学んだことを、今後に活かしたいと思っています。

今後のイベント情報

★美術館・博物館等の催し案内

施設名	主な催しもの	期間
県立美術館	特別展 <u>大エルミタージュ美術館展</u> <u>オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち</u>	H29. 10. 3(火) ~ H30. 1. 14(日)
県立人と自然の博物館	開館25周年記念展示 「 <u>ひとはく研究員のいちおし25選</u> (秋の部)」	H29. 10. 7(土) ~ H30. 1. 8(月・祝)
	緊急速報展 <u>ヒアリとアカカミアリ</u>	H29. 7. 1(土) ~ H30. 1. 8(月・祝)
	収蔵資料展 「 <u>ひょうごの針葉樹</u> 」	H29. 10. 7(土) ~ H30. 1. 8(月・祝)
県立歴史博物館	特別企画展 「 <u>ふろくの楽しみ</u> <u>明治~平成の子どもの雑誌から</u> 」	H30. 1. 27(土) ~ H30. 3. 25(日)
県立考古博物館	開館10周年記念企画展 <u>ひょうごの遺跡2009~2018</u> — 調査研究報告 —	H30. 1. 20(土) ~ H30. 3. 25(日)
県立考古博物館加西分館 「古代鏡展示館」	開館記念展2 <u>三彩の俑たち 唐王朝のたたずまい</u>	H29. 9. 7(木) ~ H30. 3. 13(火)